

GAP 講習会を開催しました

上田農業農村支援センターでは、8月7日(月)に上田合同庁舎にて GAP 研修会を開催しました。

GAP (Good Agricultural Practice) とは直訳すると「よい農業のやり方」という意味であり、安心安全な農産物を将来にわたって生産しつづけられるようにするための改善活動のことです。農業経営では農作業中の事故や生産物への異物混入など、発生すると安心安全な農産物生産にとって悪影響を及ぼすリスクがあります。これらのリスクについてあらかじめ対策したり、事故などが発生しない仕組みづくりを行うことで持続的な農産物生産を目指します。

当日は22名に参加いただき、GAPの内容について自身の経営での取り組みや改善点を意識していただけるよう具体例を中心に講習を行いました。GAPは農作業事故防止や異物混入対策、労務管理など様々な分野に関わっており、自身の経営で取り組める部分からGAPの実践に取り組んでいただければと思います。



2-1 国際水準のGAPの実践って？

国際水準のGAP「5つのポイント」

(世界中の誰が見ても「GAPを実践している」と認めるポイント)



5つのポイントを守ることで持続性の高い農業につながる

講習会資料 (一部抜粋)